

風はふたたび・・・

★東部地区総合優勝の意味

OB会はプロスポーツのファンクラブではない。

したがって試合成績が芳しくないからといって批判も叱りもしない。当たり前だ。試合に強い時ばかりであるはずもないし、うまくいかない選手の気持ちも痛いほどよくわかる。自分たち自身が経験しているからだ。試合に強い弱い選手をひいきもない。ただ競技スポーツなのだから順位や記録を狙うのは当たり前。好成績は賞賛するし、我々もうれしい。



そして東部地区大会で5年ぶりの総合優勝を飾った。東部大会を取るという事は大きな意味を持つ。極端に言えばスーパースターが全国大会個人で2冠、それが二人くらいそろえば30点台でインターハイ総合優勝は可能だろう。東部大会はそうはいかない。100点越えの競争、つまりは選手層が厚くチーム力がなければ勝てないのである。

今年の春高は見事に短距離、長距離、投擲、跳躍、競歩、そして一番大事なリレーで確実な得点を果たしたのだ。両リレーで好成績を残すという事はチーム状態が活気に満ちている事の表れでもある。

東部大会の勢いそのままに県大会でも快進撃が始まった。

★赤き疾風は更に加速し・・・

県新人に49回卒・流氏と応援に行った。今大会もまた楽しかった。

我々OBにとって現役の活躍というものはいつも心を弾ませてくれる。これを味わえるのは、OBたる者の特権である。自分たちも研鑽し、競技経験をもつ同門。他人とは一線を画す敬意を持てる、つながりである。

県新人はもう69回大会だそうだ。旧制中学が終わり、新制高校が始まってからなのでもう70年になるのか・・・とシニアくさい思いにふけてしまった。69回のうち、半数位を観てきたのだから。

私は学生時代の競技経験というのは、何十年経っても鮮烈に覚えている事がある。それが春高怪物列伝・・・になっているのだが、例えば自分の中2の初めての県大会も覚えているし、瀬上と行ったインターハイの表彰式もしっかり頭に浮かんでくる。競技場の臭い、空気の感じ、風景…極めて鮮明に。

誰がいつ、何位で、どう言っていた・・・というのをたよりにコラムに書いているのだが、「そんなに(試合を)覚えているのなら(勉強も)ちゃんとしろ」・・・と昔から友人に諭されたこともある。そんな時、私は決まって「はい。」と素直に認めるのであった。

話を新人戦に戻そう。

★トラック陣の奮闘

故障などを除いたほぼ全種目で県大会出場を決め、熊谷で熱戦が繰り広げられた。注目すべきは東部大会の記録はあくまでその大会のもの。県に進めばみなぐんぐん力を伸ばしていった。



200mでは板東、井ノ川が準決勝まで進んだ。主将の井ノ川は22秒46で通過し、決勝では4位に食い込んだ。惜しいのは関東新人は3位までであることだ。3位とは0.01秒差・・・この悔しさを冬季のエネルギーにしてほしい。

200m決勝



400mでは1年生の鈴木がいきなりの50秒13をマーク。予選全レースのトップタイムであった。準決勝では及ばなかったが安定して50秒で走れる大器だ。マイルもアンカーを務める。

800mは1年生ながら岸田も出場。2分1秒で走った。中島は安定して1分59秒をマークし準決勝まで進むことができた。

★青木の勝負力

中長距離で一番大事な要因は、勝負強さである。ローカルで好記録を持つより、ゆさぶられても上位でゴールできる力が大切だ。

1500mでは青木の実力が発揮された。東部大会では4分3秒で2位であったが、県選手権では4分0秒で走っている。





1500m決勝は800mと2冠の西久保選手に後れをとったが、3分58秒81の2位で関東と3分台突入を果たした。

優勝した西久保選手は800mを独走の1分53秒で走る選手。春の県大会の覇者でもある。5000m寄りの青木が春にはどういう勝負をするか、楽しみである。また上位6人くらいは拮抗しているだろうから安心はできないだろう。東部大会では青木に勝った選手もいる。

5000mは何としても3位には入りたい青木。春の県大会は1500m7位、5000m7位と辛酸をなめた。5000mでは14分57秒で走ったが、届かなかった関東の壁。前哨戦である新人では関東のレースを経験しておきたいであろう。



14分台で2位を決めた青木

レースは序盤スローペース。この時点で14分40秒台の望みは消えか？勝負に徹するレースとなった。トップの栄を追うのは青木と農大三、武蔵越生、西武文理という強豪がひしめく。埼玉栄の15mほど後ろを3人がけん制しあうレース展開となった。最終直線でダッシュになったが青木が抑えて2着。1位と3秒差の14分台をマーク。3位以降は15分台であった。わずかの差だが14分台でレースを終えた事には大きな自信につながったであろう。



2組では1年生の萱原 亮太が見事15分59秒でゴールした。

着順こそ入賞には届いていないが、県大会で自己記録15分台！という記録は、この冬に大きな希望を残せたと思う。楽しみなランナーだ。



110mHには大野、高山が出場し、高山は16秒台をマークした。

5000mWは東部1位2位の小澤と西が5位、9位と健闘した。東部で漏れてしまった藤田もいるので春には関東出場を狙いたい。

今回、唯一のフィールド得点を果たしたハンマー8位の中村。

中村はやり投げでは50mを超えたものの、惜しくも9位と決勝を逃した。ハンマー、やり投げの両立にも来期は期待したい。

その2へ

ハンマーとやり投げをこなす中村。

